

✿ 令和元年度 青少年地域活動チャレンジ支援事業助成団体

県民会議では青少年自身が自主的に企画・運営する青少年育成や地域活動を支援しています。令和元年度補助金を交付した団体の事業を紹介します。

■島根県立大学松江キャンパスサークル「みんなの家」

第2 浜北台でらこや特別企画「ハロウィンパーティー！！」
みんなの家サークルは、子どもの居場所をつくることを目的としたサークルです。現在、島根県立大学の学生 27 名と顧問の先生 2 名で活動しています。居場所づくりを通して、学校と家以外にも、子どもたちが安心できる場所や、地域の人たちとつながる場所を作りたいと考えています。10 月に特別企画「ハロウィンパーティー！！」を開催しました。



■三刀屋地区まちづくり協議会「青少年育成活動事業 サマーキャンプ 2019」

三刀屋地区まちづくり協議会は雲南市内の 30 ある地域自主組織の一つで、管轄している地域には人口 2500 人、1006 世帯を有しています。小・中・高校生を対象とした生涯学習事業は、サマーキャンプや通学合宿がありますが、高校生サポーターや中・高校生のインターンシップを受け入れたり、退職教員の応援によって学習の場づくりをしたりして「地域づくりは人づくり」をテーマに人材育成に積極的に取り組んでいます。

令和2年度 青少年の自立を促す場づくり支援事業 助成団体の紹介

この事業は、県民会議の活動に賛同し、推進していこうとする青少年自身や大人、それらに関わる団体が、青少年の自立を促す場づくりを行う活動について助成し、その成果を県内に広報することで青少年の地域活動の普及・啓発を図ることを目的とした事業です。令和2年度に補助金を交付した団体の事業を紹介します。

NPO法人 KEYS (松江市)

松江市の乃木・忌部地区に住む高校生18人が、「高校生になっても地域のために活動したい」という想いをもって設立した様々な地域活動を行うNPO法人

◆未来リユニオン（中学生のための高校説明会）

コロナ禍の中、進路を考える機会が減っている中学生のために、市内高校6校（南・北・農林・商業・工業・開星）の生徒による高校説明会を行いました。中学生の興味関心に沿ったこと、高校生だからこそ伝えられること（食堂等の学校設備、他校との良い違い・良くない違い等）を中心に説明したので、学校が行うものとは一味違った高校生独自の説明会になったと思います。説明が終わった後は、各高校ごとにブースに分かれて質問コーナーを開きました。和気あいあいとした雰囲気の中、中学生が自分の興味ある高校について、熱心に調べていました。

◆松江湖南学園地域リーダー育成研修会

毎年、乃木・忌部地区の青少協により開催されている研修会を、KEYSのメンバーが参加し、アイデアを出すことによって中学生・高校生・地域の大人たちがより仲を深められるような内容にして開催しました。アイスブレイクで参加者が打ち解けあった後、グループに分かれて地域に関するテーマから1つを選び、グループごとにまとめて発表しました。初めはみんな緊張している様子でしたが、意見を出し合ううちに地域への考えを深められ、テーマについて新たな視点から考えることが出来ました。発表では中学生が中心となり、参加者の中で堂々と発表していました。



未来リユニオンの様子



松江湖南学園地域リーダー育成研修会の様子

県民みんなで青少年の活動を応援しよう!! 令和3年度 青少年の主体的な活動支援事業 活動団体の紹介

この事業は、県民会議の活動に賛同し、推進していこうとする青少年自身や大人、それらに関わる団体が、青少年の自立を促す場づくりを行う活動について助成し、その成果を県内に広報することで青少年の地域活動の普及・啓発を図ることを目的とした事業です。令和3年度に活動を応援した団体の事業を紹介します。

県立大学サークル みんなのいえ（松江市）

県立大学松江キャンパスの子どもの居場所づくりを考えるサークル。

◆事業名：「第2 凧台でらこや」特別企画第三弾
「島根の世界遺産に触れよう」

サークルの活動場所の一つである、松江市城北地区の小学生を対象とした学習支援事業「第2 凧台でらこや」の子どもたちと一緒に、島根の世界遺産に触れて、新たな島根の魅力を発見することを目的に石見銀山を訪れました。

参加した7名の子どもたちが、石見銀山で聞いたガイドの方の話をもとに、石見銀山についてそれぞれ新聞にまとめました。石見銀山ではiPadを活用し、ICT機器に触れる機会を作りました。



やくも夏まつり実行委員会（松江市）

県松江市八雲町でお盆に開催する「やくも夏まつり」を主催する団体。

◆事業名：街に灯を灯そう！キャンドルライト作成ワークショップ

コロナ禍で、毎年開催している「夏まつり」が2年連続で中止になりました。その中、祭りの灯をどうにか灯せないかと考え、町の玄関口にある親水公園をキャンドルライトで装飾しイルミネーションを開催する事で、町の人たちの気持ち少しでも和らぐと良いと考えました。

キャンドルライトの作り方を動画にし、合計15家庭で動画を参考に作ってもらったキャンドルライトを、地元の中学生ボランティア7名と一緒に公園に飾りつけしました。



江津市更生保護女性会（江津市）

江津市で更生保護に協力するボランティア団体。

◆事業名：あいさつ運動からつなぐシトラスリボン

年間を通じて、毎月1日・15日に江津市内の小・中学校を回り、児童や生徒と一緒にあいさつ運動を行いました。あいさつ運動からご縁がつながり、市内の中学校生徒と一緒に「シトラスリボン（コロナ禍での差別偏見をなくそうという願を込めて作られたお守り）」を作り、人権問題について考える機会を持つことができました。



にしますだツナガル（益田市）

益田市西益田地区の公共スペースの整備や野外活動を通して、地域住民と子どもたち（中学生）とのつながりの機会を創出することによって、より良い地域づくりを目指すことを目的とした団体。

◆事業名：西益田魅力化プロジェクト

地域の大人と子どもが一緒になり、「地域のひとと、団体と団体のつながりを広げる、深める」ことを目的として、地域公園の芝生化、親子川流れ活動、灯火祭を開催しました。

中学生自身が各イベントの企画・運営に携わることで、活動に対する主体性や意欲の高まりが感じられました。また、大人も地域の未来の担い手を育成するという意識を持ちながら活動することで、大人同士の絆の深まりややりがい、地域の良さの再発見につながる活動となりました。



県民みんなで青少年の活動を応援しよう!! 令和4年度 青少年の主体的な活動支援事業 活動団体の紹介

この事業は、県民会議の活動に賛同し、推進していこうとする青少年自身や大人、それらに関わる団体が、青少年の自立を促す場づくりを行う活動について助成し、その成果を県内に広報することで青少年の地域活動の普及・啓発を図ることを目的とした事業です。令和4年度は「青少年地域活動チャレンジ支援事業」に2団体、「青少年育成ネットワークモデル支援事業」に2団体が助成を受け、事業を行いました。

◆青少年地域活動チャレンジ支援事業 島根オロチビート浜田（浜田市）

障がい者と健常者が共にブラインドサッカーを通して理解し合う「当たり前前に混ざり合う社会」をつくること、全ての人が輝ける場を提供することを目的に活動する団体。

◆事業名：「楽しい」をすべての人へ！誰も仲間外れにしない
～インクルーシブ・ブラインドサッカーイベント～

ブラインドサッカーの持つ素晴らしさを多くの人と分かち合い、障がい者スポーツに関心を持ってもらうため、地元の少年サッカーチームや障がいのある子どもたちを対象としたブラインドサッカーイベントを開催しました。アフィーレ広島、ベルガロッソ浜田の選手を招いたブラインドサッカー体験やサッカー指導を行いました。



◆青少年地域活動チャレンジ支援事業 コンシリーダーズ（松江市）

松江南高等学校の生徒による、地域とのつながりづくりやコミュニティの形成を目的として活動する団体。

◆事業名：映画「カンタ！ティモール」上映会

ウクライナ情勢がある中、映画を通してたくさんの高校生に戦争について考えてもらいたいという思いから、東ティモールの人々の生き方や考え方を描いた映画「カンタ！ティモール」の上映会を開催しました。映画上映会の開催のために、日程の決定から会場の予約、資金の調達や広報まで、初めてのことで難しい部分もありましたが、自分たちで考え、時に周りの大人に助けをもらいながら無事に開催することができました。



◆青少年育成ネットワークモデル支援事業 安田地区青少年育成会議（益田市）

益田市安田地区内の次世代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に活動する団体。

◆事業名：かんじるつながり する人・される人からともに生きる人へ

安田地区の青少年と一緒に3つの事業を企画しました。小中高生スタッフを募った「こんなにそばにいるんだ」事業では、地区内の安心して遊べる場所や地域の魅力取材し、SNSやパンフレットで発信しました。中高生スタッフを募った「教えて。年を重ねるってことは」事業では、益田市や津和野町の防災について学んだり、高齢者の買い物に同行しながら日常生活の不便や課題を聞いたりしました。中高生スタッフを募った「できたじゃん 今のわたしたち」事業では、安田公民館のイルミネーション点灯イベントの企画、運営を行いました。



◆青少年育成ネットワークモデル支援事業 島根県青少年育成アドバイザー連絡協議会（松江市）

県内で活動する青少年育成アドバイザー及びアドバイザーを目指す者で、会の趣旨に賛同した者により構成する団体。

◆事業名：第26回中国・四国ブロック青少年育成
アドバイザー連合会 研究集会（島根大会）

青少年育成に関わる者が集い、青少年やアドバイザーの意見を聞き、青少年を地域でどのように応援していくのかを考えるきっかけとするための研修会を実施しました。

「教育の魅力化について」の基調講演、若者ディスカッション・グループ協議を開催し、参加者からは「プログラムの内容が分かりやすく、興味を持って聞けた。素晴らしい若者が育っている島根の未来が楽しみ。若者の未来を応援できる地域づくりに貢献したいと思った」といった感想をいただき、大変好評でした。



令和5年度 青少年の主体的な活動支援事業 助成団体事業紹介

この事業は、県民会議の活動に賛同し、推進していこうとする青少年自身や大人、それらに関わる団体が、青少年の主体的な活動やその支援、継続的に青少年の居場所を開設している団体に対して助成し、その成果を県内に広報することで青少年の地域活動の普及・啓発を図ることを目的とした事業です。令和5年度は「青少年地域活動チャレンジ支援事業」3団体、「青少年の居場所支援事業」2団体に助成しました。

◆青少年地域活動チャレンジ支援事業

青少年地域活動チャレンジ支援事業は、青少年の主体的な活動やその活動を支援する大人の支援体制づくりへの助成です。

情報科学高等学校で遊ぼう学ぼう講座班（安来市）

事業名：情報科学高等学校で遊ぼう学ぼう講座

「情報科学高校で遊ぼう学ぼう講座」は、高校生が講師やサポートスタッフとなり、地域の小中学生に動画編集やプログラミングなどを体験してもらう講座です。今年度は6月から10月までの休日に各1回実施し、3月にも開催予定です。夏休みには、松江市の川津公民館出張講座も行いました。参加者からは、「丁寧に教えてくれて分かりやすかった、次回も楽しみにしています」などの感想をいただきました。講座は、3年生の13人が中心となって企画、広告、スタッフ教育、運営などをすべて行います。各小中学校へのチラシ配布は、その学校の卒業生が行きます。この講座を通して小中学生に楽しんでもらい、ICTに興味を持ってもらうこと、そして高校生自身のコミュニケーション能力、臨機応変に対応する能力を磨くことができます。



一般社団法人 学び design（松江市）

事業名：好気心 Lab.

好気心 Lab.は小学生から高校生が集まり、ボードゲームやものづくり、アートなどの多面的な活動を通して、子どもの好奇心を高める活動をしています。最近、高校生が小学生をサポートする姿も見られ、より良いコミュニティになっています。

利用者からは、「ボードゲームやアートを通してコミュニケーションが自然にとれるので、初めてでも安心して参加できる」や、保護者からは、「家ではゲームばかりなので、いろんな遊びができて良い」といった感想をいただいています。引き続き、子どもたちの表現力や創造力を高める活動を心掛けながら活動を進めていきます。



吉田地区自治協議会（益田市）

事業名：吉田地区未来づくりプロジェクト

吉田地区自治協議会では、小中学生の地域活動団体である「ヨシダリーダーズ」を今年度発足させました。子どもたちが自分で考え、決め、実行していくことを大切に、子ども同士はもちろん大人と子ども、大人同士もゆるやかに繋がりながら活動を行ってきました。

自分たちのやりたいこと、誰かの役に立つこと、他地域との交流など、これからも楽しさを大切にしながら活動を続けていきます。



◆青少年の居場所支援事業

青少年の居場所支援事業は、継続的に青少年の居場所を運営する団体等の恒常的な活動への助成です。

特定非営利活動法人 スペース（松江市）

事業名：小学生を対象とした長期休暇中の居場所事業

スペースは様々な背景をもつ子どもたちが安心して過ごせるもう一つの学びの場・居場所になることを目指して活動している団体です。学校の長期休み期間の小中学生を対象として、夏の居場所、冬の居場所の活動が無事終了し、3月には春の居場所を予定しています。学習支援や遊び、団らんなどの交流を通して、子どもたちの孤立を防ぐことを目的にしています。居場所とあわせて、食事の提供を行い生活面での支援にも取り組んでいます。夏の居場所のアンケートでは、「毎日行くのを楽しみにしていた」「お昼の提供がとても助かった。次回もぜひ参加したい」といった肯定的な声をたくさん頂いており、スタッフともども大変さはありますがやりがいを感じています。



子どもの居場所フリーダス（松江市）

事業名：不登校の子どもの体験・学習等支援

子どもの居場所フリーダスには、絵を描く子どもたちが多くいます。最近、絵をデジタルで描くことを希望する子が増えてきました。この助成金を活用し、紙に描くよりより自由で、きれいで、楽しく描ける「iPad」を購入しました。

「私は絵を描くのが小さい頃から好きなのですが、ずっと紙とペン、良くてスマホで指で描いていました。ですが、他の絵描きさんがiPadの大きい画面で描いているのがすごく憧れでした。なのでiPadがあるのがすごく嬉しいです。」と、子どもたちが喜んでくれています。